



「退院が決まったけれど…」



## 全国に広がるホームホスピス

『家に帰れない人が自宅のような雰囲気の中で最期まで過ごせるもう一つの家があったらいいね』と、2004年、在宅ホスピスのひとつの形態として「かあさんの家」が始まりました。

この仕組みはタンポポの種がとんでいくように全国の医療・介護の関係者の間に広がっていきました。

2015年、全国ホームホスピス協会を設立し、実践に基づいた「ホームホスピスの基準」を策定、理念を共有しながらケアの質の担保に努めています。



理事長 市原 美穂

### 全国ホームホスピス協会について

一般社団法人全国ホームホスピス協会は、全国のホームホスピスをつなぐネットワークを構築するとともに、ホームホスピスの理念・ケア・運営の「基準」を制定し、それぞれのホームホスピスが、その基準に沿ったケアや運営を行うことができるように、助言などのサポートや相談対応、及び各種の研修を実施しています。

また、2年以上の運営実績があるホームホスピスについては、その実態を「基準」に照らし合わせて評価し、質の高いケアや環境作りに取り組み、地域に開かれた運営を行っているホームホスピスを「認定」するプログラムやホームホスピスを新規に開設したい人、ホームホスピスを学びたい人のための研修プログラム「ホームホスピスの学校」を実施しています。

#### 一般社団法人全国ホームホスピス協会

〒880-0913

宮崎県宮崎市恒久2丁目19-6

TEL 0985-65-8087 FAX 0985-53-6054

info@homehospice-jp.org

https://homehospice-jp.org



HP



facebook



Twitter

# ホームホスピス®

## ホームホスピスってご存知ですか？

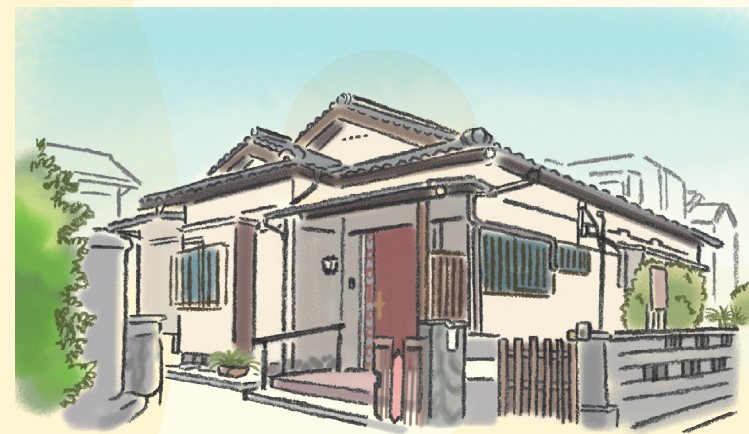
ホームホスピスは、病気や障害をはじめ、様々な理由によりご自宅での生活を続けることが困難な方々が、24時間の見守りとケアを受けながら、安心して暮らせるもうひとつの「我が家」です。

一軒の家（民家）に5～6人程度がともに暮らし、その住人を介護スタッフや地域の医療連携チームが支えます。

一人暮らしで家族のいない人も、ともに暮らし合う関係を築いていきます。

そして、痛みやその他の身体的なケアだけでなく、生活者として人生の幕を閉じるまで、住まいを中心に、医療、介護、そして生活支援が一体となったケアの体制を構築します。

ホームホスピスは  
こころ落ち着く  
もうひとつの自宅



一般社団法人 全国ホームホスピス協会

ホームホスピス®は、全国ホームホスピス協会の登録商標(区分:第44類)です。

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

この漫画のように、ケアマネジャーさんからの紹介の他、医療機関や訪問看護師さんからの紹介、また直接ご本人やご家族からご相談をいただくなど、様々なプロセスで入居が決まります。

## ● どんな人が利用できますか？

ホームホスピスは、病気や障害の種類、介護度、年齢などに関係なくご利用いただけます。

- 病院から退院しても自宅で生活できるか不安（自立した生活が難しい）。  
▶でも、施設や病院ではなく、家のような雰囲気のところで過ごしたい。
- 最期まで自宅で過ごしたいけれど、様々な理由（がんがあって認知症など）で家族による介護が難しい。
- 在宅で介護を受けているが、家族の用事や休息などのため、24時間のケアが受けられるところを一時的に利用したい。



生活を支えるための医療  
(かかりつけ医・その他の専門チーム)

# ホームホスピス

在宅サポート

自宅のようにホッとする空間

## ● ホームホスピスの仕組み

ホームホスピスの住人は、民家やマンションなど、地域にある「住まい」で、家族のように少人数による「とも暮らし」をしています。一人ひとりに合った在宅ケアプランで、毎日24時間の生活支援と、訪問介護、訪問看護、訪問リハ、訪問診療などの在宅サポートケアを受けて生活しています。

生活を整える  
食事・排泄・運動  
睡眠・清潔・会話

暮らしに伴走する  
ケアスタッフ

ともに暮らす仲間

意思の尊重

いつでも訪問できる(※)

※ 感染症流行時などは制限させていただく場合があります。

## ♥ 「とも暮らし」とは

人は病気や障害を持ったり、老いたりすると、どうしても誰かのお世話にならなければ生活できなくなります。そんなとき、人はさまざまな苦悩を抱えます。

「あなたはここにいていいですよ」と受け入れられ、自分は大切にされていると感じることで、そこがその人の居場所になります。安心できる居場所をつくり、そこで暮らしが守られ、命が守られることで、その人の内側に生きようとする力が湧いてきます。

「とも暮らし」という住まい方は、共に、友として、伴って暮らすことで、孤立や孤独感から解放され、自然の気配や四季の移ろいを感じながら、最期の日まで自分らしく生きることを目指すものです。



家族や親しい人